

心に物なき時は

心広く体泰なり

やすらか

上杉謙信

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

上杉謙信

戦国武将。越後守護代の後裔で本拠地を春日山城（新潟県上越市）に構え関東管領山内上杉氏の家督を引継ぎ上杉景虎と名乗った。また武神「毘沙門天」の熱心な信者で軍旗に「毘」の一字を掲げ、謙信は出家後の法名である。戦国屈指の戦上手とされ、軍神・越後の龍と称された。上杉家は以後に幾度の変遷を経て明治維新を迎え、明治四十一年に謙信の勤皇が評価されて従二位に贈位されると共に上杉神社に祀られた。

神道知識への誘ひ「御飼神事」

檜原村春日神社の神事で、「おとう」とは共に食を分かち、神と同じ釜の飯を食べることを意味し、毎年三月一日から二日にかけて行われます。当番の男性が一定期間「切火」という精進潔斎をし、一日の午後九時に役割を決め、二日の午前零時三十分頃白禪白足袋にて秋川で禊をします。川岸の井戸で水を汲み、米をとき、境内に戻り火打ち場で火打石にて熾した火で米を炊き、白木の椀に高く盛ります。夜が明けると、白装束（白丁）を着た「おてなが」と呼ばれる当番により御神前に供えられます。

物欲がなければ  
心はゆったりとし  
体はさわやかである  
『上杉謙信公家訓十六ヶ条』

紀元祭（十二日）

本年は、皇紀二六八二年。

神武天皇の建国創業をしのび、国の誕生を祝い、国を愛する心を養いましょう。

天長祭（二十三日）

国民の奉祝の万歳で今上陛下のお誕生日をお祝いいたします。

